

# 会 議 録

会議の名称	平成26年度 第1回 社会教育委員会会議		
日 時	平成26年 8月6日(水) 開会 午前10時00分 ・ 閉会 午前12時00分		
場 所	池田市中央公民館 会議室B		
出席者	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>《委 員》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ たつみ議長</li> <li>・ 室田副議長</li> <li>・ 小倉委員</li> <li>・ 杉山委員</li> <li>・ 古田委員</li> <li>・ 向田委員</li> <li>・ 馬場委員</li> </ul> <p style="text-align: center;">計 7名</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>〈事務局職員〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 村田教育長</li> <li>・ 阪本教育部長</li> <li>・ 谷口教育部次長兼資料館長</li> <li>・ 加藤図書館長</li> <li>・ 東本石橋プラザ館長</li> <li>・ 上阪公民館長</li> <li>・ 田上生涯学習推進課長</li> <li>・ 南石橋プラザ副館長</li> <li>・ 杉本図書館副館長</li> <li>・ 高野資料館副主幹</li> </ul> <p style="text-align: center;">計 10名</p> </td> </tr> </table>	<p>《委 員》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ たつみ議長</li> <li>・ 室田副議長</li> <li>・ 小倉委員</li> <li>・ 杉山委員</li> <li>・ 古田委員</li> <li>・ 向田委員</li> <li>・ 馬場委員</li> </ul> <p style="text-align: center;">計 7名</p>	<p>〈事務局職員〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 村田教育長</li> <li>・ 阪本教育部長</li> <li>・ 谷口教育部次長兼資料館長</li> <li>・ 加藤図書館長</li> <li>・ 東本石橋プラザ館長</li> <li>・ 上阪公民館長</li> <li>・ 田上生涯学習推進課長</li> <li>・ 南石橋プラザ副館長</li> <li>・ 杉本図書館副館長</li> <li>・ 高野資料館副主幹</li> </ul> <p style="text-align: center;">計 10名</p>
<p>《委 員》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ たつみ議長</li> <li>・ 室田副議長</li> <li>・ 小倉委員</li> <li>・ 杉山委員</li> <li>・ 古田委員</li> <li>・ 向田委員</li> <li>・ 馬場委員</li> </ul> <p style="text-align: center;">計 7名</p>	<p>〈事務局職員〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 村田教育長</li> <li>・ 阪本教育部長</li> <li>・ 谷口教育部次長兼資料館長</li> <li>・ 加藤図書館長</li> <li>・ 東本石橋プラザ館長</li> <li>・ 上阪公民館長</li> <li>・ 田上生涯学習推進課長</li> <li>・ 南石橋プラザ副館長</li> <li>・ 杉本図書館副館長</li> <li>・ 高野資料館副主幹</li> </ul> <p style="text-align: center;">計 10名</p>		
欠 席 者	楠田委員		
傍 聴 者	2名		
議 長	たつみ 議長		
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、平成26年度社会教育関係事業の概要および課題等について</li> <li>2、近畿地区社会教育研究大会大阪大会について</li> <li>3、全国社会教育研究大会徳島大会について</li> </ol>		
配 布 資 料	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 平成26年度社会教育関係事業について</li> <li>② 平成26年度近畿地区社会教育研究大会(大阪大会)について</li> <li>③ 第56回全国社会教育研究大会徳島大会について</li> </ol>		

## 議 事 経 過

開 会
(教育長あいさつ)
委員紹介 (馬場委員)
<b>1、案件1 平成26年度社会教育関係事業の概要および課題等について</b>
資料①に基づき、各施設、課より事業概要と課題等の説明
<b>【公民館】</b>
公民館長より資料に基づき説明。
委員・公民館をこれだけ安く借りられるということ、市民にどのように周知させているのか。
また、ロビーや事務室前が無駄に広い。他の公民館ではもっとごちゃごちゃしており、市民が集まって何かやるような、たまり場のような感じであるが、ここはそうではない。
事務局・前と比べ不便な点がある。また、PRは広報紙やHPで行なっているが、口コミでも広がっている。
委員・大学との連携が必要ではないか。
事務局・検討しているところ。
委員・大阪市のいちょう大学が閉鎖となった。高齢者大学の卒業生は膨大な数になっており、その卒業生がNPO法人を立ち上げるなどして活動し、公民館活動となっている。箕面市、茨木市、豊中市されているなかで池田市だけが欠落している。そういう要望があった場合、この公民館は利用可能か。
事務局・市外の方でも利用は可能だ。料金は市外市内同一である。
委員・大阪青山大学では、箕面市、川西市、池田市と連携締結している。箕面市、川西市では講座の開催など行なっているが、池田市ではまだない。大学にはいろいろな分野の教授がいるので利用されたらよい。大学でも市町村との連携を進めている。公民館だけでなく、図書館や資料館とも連携も考えられるし、利用してくれたらよい。
事務局・近隣の大学と連携し、少し専門的な内容の講座ができないかなと考えているところ。いろいろ協力いただきたい。
委員・他に包括協定を結んでいる大学は。
事務局・本年度より権限委譲により、豊能地区3市2町で教員採用できるようになった。そのため、優秀な人材を確保するため、近隣のほとんどの大学と提携しているところである。
委員・利用者以外の方の駐輪がされているように思えるが。
事務局・利用者以外の方の駐輪禁止の看板をたてる予定。
<b>【図書館・石橋プラザ】</b>
図書館長、石橋プラザ館長より資料に基づき説明。
委員・図書館1人に対する利用者の多いところは。

事務局・本館である。図書コーナーの利用者の予想以上に多い。
委員・移動図書の利用について。
事務局・本年度より、図書コーナーの関係、利用者数の状況もあって、移動図書の行き先を18箇所から16箇所に絞った。
委員・本がかなり古くなっている。大学の図書館では入れ替わりが早い。市の図書館の本よりまだ新しい本でも廃棄している。大学と連絡をとって、本の入れ替えの時にまだ使える本をもらってき てはどうか。大学教授が退官したときも本の置き場所に困っている状況もある。
<b>【歴史民俗資料館】</b>
歴史民俗資料館長より資料に基づき説明
委員・小学生からすると、歴史民俗資料館は高尚なイメージがある。池田の3年生の先生が3学期 に昔の暮らしを学習する時に箕面の資料館に行くところが半分くらいある。学校で昔の暮らしを教 える時期にあわせて歴史民俗資料館で池田の昔の暮らしの展示をしてもらおうとありがたい。弥生時 代の勉強では田能遺跡に行っている。子どもたちが歴史民俗資料館へ足が向くような展示をしても らうと、もっと歴史民俗資料館が身近なものになると思う。
事務局・学校との連携も重要と認識。学習で活用していただくよう民具の学習展をし、学校にも呼 びかけをしてきたが、先生の方でも資料館の活動が浸透していない。また、学校に対して出前講座 をしますよ、と投げかけているところであるが、まだ実現していない。資料館としては玄人向けの 展示もする一方で、小学校の歴史の教材として活用についても考えていきたい。
委員・現物を貸出して見せれば、子どもたちももっと関心を示す。見せて触らせるということも重 要。民具などは貸出やすいのではないか。
事務局・学校に行って話をするというやり方なら良いが、壊れるというリスクを考慮すると、物だ け貸出ということは考えていない。
委員・保存と公開は実は矛盾していることであり、実に難しい問題だ。実物を触るということは、 子どもたちにとっても大事なこと。学校で子どもたちが学ぶ時間に合わせて、現物を見せることが できればよいのだが。資料館が子どもたちの学びの場を提供できるようにならないといけない。こ れからの課題である。
委員・この場はあらゆる社会教育の立場で意見を出し合う場だ。学校カリキュラムは1年前には決 まるのなら、学校のカリキュラムに合わせ、例えば図書館ではこれをしよう、資料館ではこれをし ようというように、それぞれの施設が連携した「テーマ性の一致」もあるべきだ。そうすれば、先 生も計画が立てやすいのではないか。1年前から社会教育と学校教育は手をとらないといけない。 この社会教育委員会議はそういう機能を持たなければいけない。1年に1回ではなく何回も開催し ないといけない。
<b>【生涯学習推進課】</b>
生涯学習推進課長より資料に基づき説明
委員・ジュニアスポーツに関して、各学校のクラブ活動が今は衰退している。これから小中一貫に 移行して学校のクラブ活動はどうなるのか。
事務局・小中一貫になってもなくなるならない。ただ、これからは地域でクラブ活動をどのように支え

ていくかが課題。
<b>委員</b> ・学校のクラブで指導をする先生がだんだんおられなくなっている。
<b>事務局</b> ・昔の先生は専門ではないのに顧問になったら一生懸命勉強して指導していた。ところが今の先生は、専門でないとそのクラブの顧問ができないという感覚になっている。
<b>委員</b> ・先生に技術はなくても生徒を教えられる、共に学ぶという、そういうやり方もできるのではないかと思う。
<b>委員</b> ・学校のクラブ活動の指導者を体育連盟が支援する、そういう提案をしてきたが、学校側がなかなか受け入れない。
<b>委員</b> ・完全にお任せ、というのは日本の教育の現状から中々難しい。欧米のように授業とクラブを完全に切り離す考えではないので。
<b>事務局</b> ・先生と専門家やOBとの考えが同じではない。専門家はもともと勝たなければ、という考えであるが、専門で無い先生はそこまで要求しない。先生と専門家とでは温度差があり、この辺も課題である。
<b>委員</b> ・細河中では地元の方が指導に当たっていたが、当時の校長の考えも大きいように思う。
<b>事務局</b> ・先生の数、生徒の数が少ない。野球部と剣道部と一緒にやるなど……。一つのクラブに1人の顧問が対応できず、2つのクラブが合体している。生徒、先生の数が多ければ良いが。
<b>委員</b> ・その辺で意欲のある保護者、PTAの方をうまく連携してやれば良いのだが。責任問題もあるが。
<b>委員</b> ・中学校区でのコミュニティを作ろうとする動きがある。でも小学校・中学校の先生でうまく交流がとれていない。
<b>事務局</b> ・PTAには中学校区での交流、取り組みをお願いしているところ。細河中校区では学校と一緒にするので、これからコミュニティも一緒になっていければと思っているが。
<b>委員</b> ・図書館、公民館、資料館が連携して何かやる、これからはそういった動きもあればよい。連携事業はこれからの課題。来年は阪神大震災20周年である。そういったテーマでの連携した事業も考えられる。
<b>2、案件</b>
近畿地区および全国社会教育研究大会のご案内。
その他
次回は10月もしくは11月に開催予定。案件は「山の家を考える」を予定している。なお、9月末で社会教育委員の任期が切れるので、あらためて委員としてお願いしたい。
閉 会